

大名の雅び - 奥道具 -

平成24年 4月17日(火) ~ 6月24日(日)

A: 4/17<火>~5/22<火> B: 5/23<水>~6/24<日>

大名自身やその夫人・子供達の私的な生活の場「奥」で、身の回りを飾ったり、使用した道具、また教養を高めたり、趣味や遊びに用いた道具を奥道具という。

大名の華やかな生活をしのばせる豪華な蒔絵の調度品は、婚礼の際の入奥道具に多い。その種類は、香道具・化粧道具・文房具・飲食器、旅道中具・遊戯具・楽器など多岐にわたっている。

王朝文化の伝統をひく貝合せや聞香は、単なる遊びではなく、武家の婦人に欠かせない教養だった。楽器の演奏も、たしなみの一つである。

古くから宝物視されていた古筆や古画はもとより、江戸時代の狩野派・土佐派の作品や、浮世絵なども愛好されていた。

No.	名 称	時代	世紀<年紀>	展示期間	所蔵者
1	蒙古襲来絵詞 模本 神谷元秋筆	三巻の内	江戸	寛政8年<1796>	A 建中寺蔵
2	名古屋東照宮祭礼図巻 森高雅筆	九巻の内	江戸	文政5年<1822>	B
3	純金花鳥図香盆飾り 霊仙院千代姫(尾張家2代光友夫人)所用	重文	江戸	寛永16年<1639>	
4	初音蒔絵旅眉作箱 霊仙院千代姫(尾張家2代光友夫人)所用	江戸	寛永16年<1639>	国宝	
5	桐鳳凰蒔絵硯箱	徳川家康所用	桃山-江戸	16-17	
6	古今和歌集 伝藤原為家筆 徳川宗春(尾張家7代)所用	鎌倉	弘安4年<1281>		
7	新後拾遺和歌集 伝松木宗綱筆	室町	15		
8	曾我物語	江戸	17		
9	伊勢物語 曼殊院宮良尚親王筆	江戸	17		

《特別公開》 尾張徳川家五月節供飾り

5月5日の端午の節供は、雛まつり(上巳)・七夕などと並ぶ五節供の一つです。菖蒲を用いて邪気を祓い、無病息災を祈ったことから、菖蒲の節供とも呼ばれます。

五月節供の飾りは、江戸時代に発展しました。初期には、屋外に柵を作って幟・吹流し・毛槍・馬簾・兜人形などを立てならべる「外飾り」だけでしたが、次第に屋内に飾る「内飾り」の習慣も生まれ、外飾りを小さくした幟飾りに小型の甲冑や武将・馬の人形がならべ飾られました。

尾張家では、外飾りが正式とされ、江戸時代から記録があります。一方、内飾りは、明治以降の記録によれば、皇族や親戚筋、家職の人々などからの贈答品があったことから飾る習慣ができたと言われていました。また、今日では最も一般的な鯉幟も、正式な飾りには含まれなかったようです。

今回展示する五月節供飾りは、尾張徳川家の20代義知(1911~93)から22代義宗(1961~ 現 徳川美術館館長)までの嫡男のために用意された道具や人形です。幟や兜人形には、江戸時代以来の伝統的な形式が残されています。また、ミニチュアの甲冑や五月人形はいずれもきわめて精巧な作りで、目を楽しませてくれます。